

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 24 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01175

研究課題名(和文)「人生の意味」と死の形而上学：分析実存主義の可能性とその批判的検討

研究課題名(英文) Meaning of Life and the Metaphysics of Death: the Possibilities of Analytic Existentialism and a Critical Examination of it

研究代表者

藏田 伸雄 (KURATA, NOBUO)

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：50303714

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、「人生の意味」に関する分析哲学的な議論の概要の把握に努め、さらにそれに対する評価や検討を踏まえて、研究代表者と分担者・協力者によって、この分野に関する教科書である『人生の意味の哲学入門』(春秋社2023)を上梓した。本書には宇宙的無意味さ、ナラティブ、主観説・客観説、自己実現と達成、幸福、反出生主義といった問題や、本分野のルーツであるウィットゲンシュタインや、真理条件、独我論、誕生肯定といった問題についての研究成果が収められている。本研究ではさらに、人生の意味とニヒリズム、死の形而上学と悲嘆との関連等についても扱うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記図書によって、本分野に関心をもつ人がこの概要を理解することが容易になった。本書はいくつかのメディアでも紹介されており、社会的なインパクトもあったと思われる。本研究では研究者の国際的なネットワークの構築にも努め、本科研費を財源として5th International Conference of Philosophy and Meaning in Lifeをオンラインで開催した。この会議には本分野の中心人物であるT.Metz, I.Landauといった研究者も発表や司会の形で関わっており、研究代表者の藏田他が発表を行った。また研究成果はBioethics等の海外のジャーナルにも掲載された。

研究成果の概要(英文)：In this research project, the principal investigator and his co-workers and collaborators have published a textbook on this field, "Introduction to the Philosophy of the Meaning of Life" (Shunju-sha 2023), based on their efforts to understand the outline of the analytic philosophical debates on the "meaning of life" and their further evaluations and examinations of these debates. The book contains the results of the analysis on issues such as cosmic meaninglessness, narrative, subjective and objective theories, self-realization and achievement, happiness, and anti-natalism, as well as on Wittgenstein, the root person of this field, the truth condition, solipsism, and birth affirmation. In addition, we could also deal with the relationship between the meaning of life and nihilism, the metaphysics of death and its relation to grief, and so on.

研究分野：倫理学、応用倫理学

キーワード：人生の意味 死の形而上学 反出生主義 分析哲学 分析実存主義 主観説と客観説 宇宙的無意味さ  
ナラティブ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

「人生の意味」に関する問題は、分析哲学、あるいは哲学史研究を主流とする哲学研究の中では、厳密かつ専門的な研究の対象とは見なされないか、あるいは「実存主義哲学」の中で扱われるものだとされることが多かった。特に 20 世紀に入り論理実証主義が興隆し、実証的な哲学史的研究が重視され、また現実的な問題への対応をめざす応用倫理学の影響が強まる中では、「人生の意味」に関する問題は専門的な哲学研究の対象とされてこなかった。

だが 1990 年代以降になると英語圏の「分析哲学」の中で「人生の意味」や「出生」「死」といった、「実存的」な問題について分析哲学的な手法で考察を進める一連の研究が現れてきた。特に R.テイラーや T.ネーゲル、R.ノージック、D.ウィギンズら分析哲学の流派に属する哲学者による問題提起を経て、関連する多くの論文が出版され、それらの論文は E.D.Klemke 編纂によるアンソロジー *The Meaning of Life: A Reader* (1981) 等にまとめられている。さらに S.Wolf の *Meaning in Life and Why It Matters* (2010) 等によって問題点が整理され、Thaddeus Metz によって、この分野についての網羅的サーベイが行われ、彼の *Meaning in Life* (Oxford Uni. Press, 2013) はそのような研究の集大成である。

また分析哲学的な道具立てを用いて「反出生主義」を標榜する D.Benatar は自らの編纂したアンソロジー *Life, Death, & Meaning* でこれらの研究の総称として「分析実存主義」Analytic Existentialism という語を用いている。こうして「人生の意味」や生や死といった実存的な概念についても、分析哲学的な道具立てを用いてクリアな形で議論することが可能になってきた。Metz は上記の著書の中で「人生の意味」に関する諸学説を整理し、その上で独自の主張を展開している。本研究課題はこのような Metz による研究成果と、この分野に関わっている多くの研究者の関連する研究についての批判的検討を行ったものである。

研究代表者の蔵田は 2016 年度から 2018 年度にかけて、科学研究費補助金(基盤研究(B)(一般))「「人生の意味」に関する分析実存主義的研究と応用倫理学への実装」(2016 年度～2018 年度)において、本申請の前身にあたる研究を行ったが、この研究では上記のような「人生の意味の分析哲学」の全体像の把握に努めた。2018 年には北海道大学で First International Conference on Philosophy and Meaning in Life を開催し、Metz 及び Benatar を招聘してワークショップを実施して、Metz の主張と Benatar の反出生主義については、本人を迎えて批判的に検討を行った。また上記の科研費研究班では、このような問題について関心を持つ若手・中堅の研究者のネットワークを構築し、問題意識や研究成果の共有を行った。

さらに「人生の意味」の近接領域として、分析哲学的な「死の哲学」がある。これは分析形而上学の道具立てを用いて、死者の存在や「死の害」についての分析を行うものであり、本課題の研究分担者の鈴木と吉沢は日本におけるこの分野の代表的な研究者である。しかし、「人生の意味」に関する議論と「死の哲学」に関する議論との関連は十分明らかにされてはいない。そのため、本研究課題ではこの課題に答えることを目的とした。

## 2. 研究の目的

本研究で目的としたことは、「人生の意味」に関する問とはどのような問いなのか、というメタ哲学的な問いについて分析することと、そのような問いと AI 倫理等も含めた応用倫理学的問題、さらに規範的要求及び価値論的な問いとの関連を具体的に明らかにすることであった。そして「人生の意味」に関する議論と、「死」についての形而上学的議論とを接続することであった。

具体的には人生の意味を社会への貢献や真善美への貢献等にあるとする Metz の主張や、彼の

fundamentality theory の批判的検討を行った。また Benatar の議論は多くの問題点も指摘されており、本研究ではその議論構造の批判的検討を通じて、「人生の意味」に関する議論の構造をより明らかにすることも目的とした。

またこのような議論の成果を医療やカウンセリングの現場で用いるためには、「人生の意味」に関する問を統一的に理解し、この問題圏に関する見取り図を描き、その論点をシンプルな形で提示する必要がある。

本科研費の研究分担者は全員が先の科研費研究班にも研究分担者か、研究協力者として関わっていたため、問題意識は十分共有されていた。また本研究の前身となる研究班で、この分野の研究状況はかなり明らかになっていた。「人生の意味」とは多義的な概念であるが、人生の目的、自分の生の重要性、物語などを通じた自分の生の理解可能性、等と捉えることができる。本研究では、「人生の意味」の複数の意味の関連を念頭に置きつつ、各論的な研究、特に「人生の意味」と物語、幸福、自由意志、反出生主義、出生、死、時間といった概念との関連を論じることを試みた。

また本研究では哲学史、特に 19 世紀ドイツ哲学の中でこの問題がどう扱われてきたかを検討することも目的とした。さらに本研究の最後の目的は、「人生の意味の哲学」の可能性を検討することを通じて、分析哲学そのものの問い直しを行い、真理観や哲学的議論の技法について検討することであった。

### 3. 研究の方法

本研究班では「規範・倫理・道徳」「主観性/客観性」「自由」「幸福」といった概念以外に、既存の分析哲学ではあまり問題にされることのなかった「物語」「自己実現」「達成」「疎外」「価値」「悲嘆」「宇宙的孤独」といった概念についても検討することを試みた。

本研究では研究分担者と研究協力者によるオンライン研究会を定期的に開催して各自の研究成果を共有した。特に『人生の意味の哲学入門』の各章を各自が執筆する過程で、関連する問題についての議論を蓄積した。

なお当初予定していた海外研究者の招聘、研究代表者、研究分担者の国際学会への参加はかなわなかった。しかし本科研費を財源として、研究分担者の東北大学の村山がホストになる形で、5th International Conference of Philosophy and Meaning in Life をオンラインで開催することができた。この会議には F.Kamm を基調講演者として招き、査読を通じて採用された 50 件の発表が行われた。またこの会議には本分野の中心人物である T.Metz, I.Landau といった研究者も発表や司会の形で関わっており、代表者の蔵田以外に、分担者の森岡、杉本が発表した。

またこれ以外にも関連するオンライン国際学会の開催(3rd International Conference on Philosophy and Meaning in Life 2020 Birmingham, 4th 2022 Pretoria)などを通じて、国際的なネットワークの構築を進めることができた。

人生の意味に関する問いは、反出生主義(anti-natalism : 生まれてくること自体が害悪であるので、人は子どもをつくらない方がよいという主張)を巡る批判的検討を通じて出生の倫理問題と関わっている。この問題については、吉沢、鈴木が研究を進めてきたが、本研究班ではさらにその検討を進めた。

また AI 技術の普及はわれわれの人生の意味をどのように変えるのか、という問題は本分野の重要な課題の一つであるが、この問題についても久木田を中心に検討を行った。

### 4. 研究成果

本研究の最大の研究成果は、本研究班の研究分担者(研究協力者の山口を含む)が執筆した『人

生の意味の哲学入門』(森岡・蔵田編、春秋社)を2023年12月に刊行したことである。本書は入門書の体裁をとっているとはいえ、「人生の意味の分析哲学」という分野の概要を示すものである。また雑誌『現代思想』(青土社)の2024年3月号の特集「人生の意味の哲学」には研究分担者の鈴木、長門、村山、吉沢が寄稿しており、古田・森岡の対談も掲載されているが、これらも本研究の成果である。

また本研究の研究成果の海外に向けての発信という点では、吉沢が生命倫理で最も影響力のあるジャーナル Bioethics に研究成果を発表することができた。

また村山は「人生の意味」という概念の歴史を明らかにした。

また蔵田は特に人生の意味を Meaning in Life ではなく、 Meaning of Life として理解した上で、世界概念との関連で分析する作業を進めた。「人生の意味」に関する判断の真理性については「人生の意味に関する判断」の非認知主義的理解について批判的に検討した。

また死の形而上学を研究対象とする研究協力者の鈴木生郎は、Grief (悲嘆)についての形而上学的な分析を行い、死について分析するための視座を得ることができた。

また森岡は客観説と主観説を批判する形で、フランクルの主張も踏まえて人生の意味の中核部分にある「独在的存在者」の概念を提起している。

さらにウィトゲンシュタインの哲学、特に『論考』期の哲学の根底に「人生の意味」に関する問題があるということを、ウィトゲンシュタインを専門とする古田が明らかにした。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 Morioka Masahiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Hermitism and Impermanence: A Response to Nagasawa's Argument on Transcendentalism in Medieval Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 European Journal for Philosophy of Religion	6. 最初と最後の頁 239-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24204/ejpr.2022.3815	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morioka, Masahiro	4. 巻 12
2. 論文標題 Is It Possible to Say 'Yes' to Traumatic Experiences?: A Philosophical Approach to Human Suffering?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy of Life	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久木田水生	4. 巻 50
2. 論文標題 人工知能とリスク分析文化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nextcom	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 蔵田伸雄	4. 巻 8
2. 論文標題 コロナウイルス禍の中での科学的知識と倫理	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法と哲学	6. 最初と最後の頁 87-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長門裕介	4. 巻 50
2. 論文標題 メタバースでアバターはいかにして充実した生を送りうるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 86-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古田 徹也	4. 巻 2022
2. 論文標題 意志・幸福・神秘	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 哲学	6. 最初と最後の頁 83～95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11439/philosophy.2022.83	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八重樫徹	4. 巻 38
2. 論文標題 人生はなぜ生きるに値するのか フッサールによる生の否定と肯定	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口尚	4. 巻 38
2. 論文標題 神義論における 苦難の意味づけ のあらゆる哲学的試みの失敗	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Morioka	4. 巻 12
2. 論文標題 What Is Antinatalism?: Definition, History, and Categories	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Review of Life Studies	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Morioka	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 What Is Birth Affirmation?: The Meaning of Saying "Yes" to Having Been Born	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy of Life	6. 最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山達也	4. 巻 6
2. 論文標題 「好きな人の特別な存在になる」ことの特別さ：相互的な愛の価値について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_22	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山達也	4. 巻 135(10)
2. 論文標題 「人生の意味」の短い歴史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村山達也	4. 巻 54
2. 論文標題 意味と生との交錯(一)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『思索』東北大学哲学研究会(編)	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久木田 水生	4. 巻 32
2. 論文標題 新型コロナでコミュニケーションはどう変わるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 要約筆記問題研究	6. 最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古田徹也	4. 巻 7
2. 論文標題 くじ引きは(どこまで)公正なのか 古代と現代における空想的事例をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法と哲学	6. 最初と最後の頁 77-104
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古田徹也	4. 巻 49-16
2. 論文標題 前期ワイトゲンシュタインにおける「意志」とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 八重樫徹	4. 巻 3
2. 論文標題 エルゼ・フォクトレンダーの愛の現象学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現象学と社会科学	6. 最初と最後の頁 7-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八重樫徹	4. 巻 18
2. 論文標題 道徳的ベシミズムと愛の価値	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フッサール研究	6. 最初と最後の頁 76-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fumitake Yoshizawa	4. 巻 24
2. 論文標題 A Dilemma for Benatar 's Asymmetry Argument	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ethical Theory and Moral Practice	6. 最初と最後の頁 529-544
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10677-021-10186-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉沢 文武	4. 巻 44
2. 論文標題 デイヴィッド・ベネターの非対称性論証を再構成する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学人文公共学研究論集 = Journal of Studies on Humanities and Public Affairs of Chiba University	6. 最初と最後の頁 32 ~ 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S24332291-44-P32	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshizawa Fumitake	4. 巻 38
2. 論文標題 Anti natalism is incompatible with Theory X	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Bioethics	6. 最初と最後の頁 114 ~ 120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bioe.13248	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉沢文武	4. 巻 52(4)
2. 論文標題 意味があるものにも、そもそも何をすればいいのか分からない;二つの無意味さの区別について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 50-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久木田水生	4. 巻 17
2. 論文標題 QVID TVM (次はなんだ?) 「人間を超える」という人間の根源的な欲求について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 総合人間学	6. 最初と最後の頁 64-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村山達也	4. 巻 52(4)
2. 論文標題 人生の意味について語るときに私たちが語らせるもの	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長門裕介	4. 巻 52(4)
2. 論文標題 シュワルの情熱と「芝生を数える人」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 64-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木生郎	4. 巻 52(4)
2. 論文標題 人生の意味と物語	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 38-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Ikuro Suzuki
2. 発表標題 Grounding Subsequentism
3. 学会等名 Tokyo Forum for Analytic Philosophy (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 蔵田伸雄
2. 発表標題 「人生の意味」についての判断とその責任
3. 学会等名 日本倫理学会第73回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 蔵田伸雄
2. 発表標題 先端医療技術の倫理問題を扱う演劇作品はどのようなものであればよいのか
3. 学会等名 第41回日本医学哲学・倫理学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉本俊介
2. 発表標題 人生の意味はどのように論じられるべきか
3. 学会等名 日本倫理学会第73回大会主題別討議「人生の意味」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長門裕介
2. 発表標題 カミュ『シシュポスの神話』と現代倫理学
3. 学会等名 社会思想史学会第47回大会 セッション「疎外を問い直す」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長門裕介
2. 発表標題 汚名をそそぐ生き方の善さ:更生した元不良を称賛することについて
3. 学会等名 MIPS 2022 三田哲学会 哲学・倫理学部門 例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村山達也
2. 発表標題 人生の意味の哲学を発展的に解消する：人生の意味の哲学に対する歴史の利害について
3. 学会等名 日本倫理学会第73回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉沢文武
2. 発表標題 死者のための福利の形而上学
3. 学会等名 日本大学文理学部人文科学研究所主催第18回哲学ワークショップ「死の形而上学の新たな展開」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobuo Kurata
2. 発表標題 A Judgment: "Even if we live according to objective norms, the meaning of life will not be lost"
3. 学会等名 Third International Conference on Philosophy and Meaning in Life 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森岡正博
2. 発表標題 善から悪が生成されることは悪なのか？ ベネター型の反出生主義が孕む内在的陥穽の研究
3. 学会等名 応用哲学会第12回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masahiro Morioka
2. 発表標題 What Is Birth Affirmation?: The Meaning of Saying 'Yes' to Having Been Born
3. 学会等名 Third International Conference on Philosophy and Meaning in Life (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masahiro Morioka
2. 発表標題 A Traumatic Rupture in Life and the Affirmation of Having Been Born
3. 学会等名 4th International Conference on Philosophy and Meaning in Life (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 フランケンシュタイン・コンプレックスとAIをめぐる言説
3. 学会等名 北海道哲学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古田徹也
2. 発表標題 前期ウィトゲンシュタインにおける「意志」とは何か
3. 学会等名 日本哲学会第80回大会学協会シンポジウム「論理と倫理：『論考』100年を機に」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古田徹也
2. 発表標題 偶然とアイロニー 英米圏の現代哲学の一断面をめぐって
3. 学会等名 比較思想学会第48回大会シンポジウム「運命と偶然」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ikuro Suzuki
2. 発表標題 Thick and Thin Selves Reconsidered
3. 学会等名 Third International Conference on Philosophy and Meaning in Life (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八重樫徹
2. 発表標題 人生は(なぜ)生きるに値するのか フッサールによる生の否定と肯定
3. 学会等名 日本現象学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉沢文武
2. 発表標題 反出生主義とは何か デイヴィド・ベネターの見解を中心に
3. 学会等名 東京大学共生のための国際哲学研究センター(UTCP)シンポジウム「反出生主義の含意と射程 「生まれてこなかった方がよかったのか」をなぜ問うのか」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masahiro Morioka
2. 発表標題 Is It Possible for Offenders to Affirm Their Own Birth?
3. 学会等名 5th International Conference on Philosophy and Meaning in Life (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shunsuke Sugimoto
2. 発表標題 Meaning in Life and Objective Theory of Well-being
3. 学会等名 5th International Conference on Philosophy and Meaning in Life (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobuo Kurata
2. 発表標題 Meaning of Life and the 'World' - Meaning of Life and Meaning in Life
3. 学会等名 5th International Conference on Philosophy and Meaning in Life (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Toru Yaegashi
2. 発表標題 Overcoming Pessimism with Husserl?
3. 学会等名 Husserl's Ethics in the Global Context: The Kaizo Articles Centenary Conference II (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 蔵田伸雄
2. 発表標題 「人生の意味」についての議論と「世界」 Meaning of LifeとMeaning in Life
3. 学会等名 応用哲学会第15回年次研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 人とロボットのより良い共生に向けて 道徳のエンジニアリングは可能か
3. 学会等名 計測自動制御学会中部支部シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森岡正博
2. 発表標題 「生まれてこないほうがよかった」という思想に惹かれる若者たち
3. 学会等名 第64回日本社会医学会総会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柳田和哉，成田大起，長門裕介
2. 発表標題 疎外論の拡がり：教育哲学と批判理論の現在から
3. 学会等名 応用哲学会第15回年次研究大会
4. 発表年 2023年

## 〔図書〕 計5件

1. 著者名 古田 徹也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 このゲームにはゴールがない	

1. 著者名 古田 徹也, 勢力 尚雅、佐藤岳詩	4. 発行年 2023年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 264
3. 書名 英米哲学の挑戦	

1. 著者名 山口 尚	4. 発行年 2022年
2. 出版社 トランスビュー	5. 総ページ数 448
3. 書名 人間の自由と物語の哲学	

1. 著者名 古田 徹也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 はじめてのウィトゲンシュタイン	

1. 著者名 森岡正博、蔵田伸雄	4. 発行年 2023年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 320
3. 書名 人生の意味の哲学入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森岡 正博  (Morioka Masahiro)  (80192780)	早稲田大学・人間科学学術院・教授   (32689)	
研究分担者	村山 達也  (Murayama Tatsuya)  (50596161)	東北大学・文学研究科・教授   (11301)	
研究分担者	鈴木 生郎  (Suzuki Ikuro)  (40771473)	日本大学・文理学部・准教授   (32665)	
研究分担者	吉沢 文武  (Yoshizawa Fumitake)  (20769715)	一橋大学・大学院社会学研究科・講師   (12613)	
研究分担者	古田 徹也  (Furuta Tetsuya)  (00710394)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授   (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久木田 水生  (Kukita Minao)  (10648869)	名古屋大学・情報学研究科・准教授    (13901)	
研究分担者	杉本 俊介  (Sugimoto Shunsuke)  (80755819)	慶應義塾大学・商学部（日吉）・准教授    (32612)	
研究分担者	長門 裕介  (Nagato Yusuke)  (10907976)	大阪大学・社会技術共創研究センター・特任助教（常勤）    (14401)	
研究分担者	八重樫 徹  (Yaegashi Toru)  (20748884)	広島工業大学・工学部・准教授    (35403)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山口 尚  (Yamaguchi Sho)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 The 5th International Conference on Philosophy and Meaning in Life	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関